

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年7月5日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0874300676		
法人名	特定非営利活動法人 福祉サポートセンター 県西さわやか		
事業所名	グループホーム 県西さわやか	ユニット名	
所在地	〒306-0433 茨城県猿島郡境町1762-1		
自己評価作成日	平成 年 月 日	評価結果 市町村受理日	平成25年6月3日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0874300676-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成25年2月21日	評価確定日	平成25年5月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>ご存知の通り毎年家族会を開催しています。 特に地域の老人を招いてホームの入居者と共に地域のボランティアによるカラオケ、演芸などを一緒に12時まで楽しみ1同じ食事をとり談笑して、そして、午後には、家族の皆様と現在の受け入れている状況懇談会にはいり、いろいろな意見を聞いて改善すべきところは、改善をしています。 町の文化協会の作品展示会を見学に毎年行って拝見させています。 町には西南医療センターがあり、緊急時には便利に利用しています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所は徒歩圏内に個人商店が軒を並べる商店街があるなど、生活に便利な住宅街の一角に位置している。 隣地の香取神社の境内は利用者の安全な散歩コースとなっており、利用者は神社で行われる初詣や夏祭り、七五三など、四季の祭事を事業所に居ながらにして身近に感じて日々の暮らしを送っている。 事業所は以前保育所だったことから地域の人々にも馴染みがあり、地域の人が気楽に立ち寄り、代表者が老人会の役員をしていることから、事業所を老人会の芋煮会やカラオケ大会などの行事に開放するなど、地域に根差した事業所となっている。</p>
--

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしさの生活を尊重する、買い物や外出など市民生活を継続する」を理念の一つに揚げ、管理者と職員は理念を共有して実践に努めています。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成するとともに、職員会議で共有を図っている。 職員は利用者と育った環境や言葉のアクセント、生活習慣が近いという地域密着型サービスの利点を活かしながら、理念の実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お隣が香取神社ですので庭が広くそこを利用して散歩神社に手を合わせてお参りを自然にしています。当施設長は、長内の老人会長、そして町の老人連合会の副会長としており、老人会に開放して季節季節にあった料理を作り会食をしています。	管理者が老人会の役員をしている関係で地域の老人会に事業所を開放しており、老人会の芋煮会やカラオケ大会が開催され、利用者は地域住民と交流を図っている。 退職した職員がボランティアになり、利用者の話し相手に来訪している。 近隣住民が西瓜や栗、漬物などのお裾分けを持参して、事業所に気楽に立ち寄っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	勿論のこと事業所は、いろいろな事あるごとにご近所の皆様との交流をして理解を求めています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回ご指摘の通り2ヶ月に1回は必ず開いています。ご近所の皆様をお呼びして、理事の人達、民生委員の方たちにも加わり一緒に開催しています。	運営推進会議は町職員や民生委員、事業所職員で2ヶ月に1回開催している。 会議では利用者の生活の様子や事業所の運営状況、行事などの報告を行った後、意見交換をしている。 運営推進会議で地域住民の代表者の欠席が続いたため、限られた委員での会議となっており、他方面からの意見を汲みあげるまでには至ってない。	運営推進会議が他方面からの意見を聞く機会になるよう、家族等の代表や老人会会長などに委員を依頼するとともに、参加を働きかけることを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の福祉課の職員とは、会長が近いので頻りに訪問し情報を得て利用者希望が今何人待機してるか状況を聞いては職員に報告しています。	運営推進会議に毎回町担当職員が参加しており、利用者の生活状況や事業所の運営状況について報告している。 管理者は町担当者を頻りに訪問して情報交換をしたり、事業所の空き状況を報告して相談などを行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勿論です。今現在は通りの門扉も全開して広い所が一段と広く感じます。	管理者や職員は身体拘束の弊害を理解し、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに努めている。 管理者は職員採用時には身体拘束に関する事業所の方針を説明するとともに、夜間を含めて日常の支援で身体拘束の状態になっていないかどうかを点検し、適切に支援が行われていることを確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	その通りです。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族会又は、来社の時に契約の改定等については十分説明をして理解して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	それほど要望はありませんが、あった場合その都度機会を設けて処理しています。	毎月利用料金の支払いに家族等の来訪があり、その時に介護記録を見せて意見や要望等を聴くよう努めている。 年1回家族会開催時にアンケートを実施しており、事業所に対して感謝する意見が多く聞かれている。 家族等からは「利用者の誕生会を開きたいので事業所の体操室を利用したい」という要望が出され、実現している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関しては意見や提案はミーティングの時に反映しています。	管理者は職員会議時に職員から意見や提案を聞くよう努めている。 職員からは「利用者の入浴の順番」や「利用者が食べ易い食事」などについて意見が出され、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勿論の事意見はよくきいており、給与等に関しては、又は、労働時間については基準に近い条件は満たしています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	進めていると思います。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	取組みとはいかないが、勉強会はケアマネーを通してやっている。相五訪問はやっていない。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	要望はできる耳を傾け安心して満足している納得のする話あいをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	信頼関係は十分すぎるほど関係づくりに一生懸命努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者が安心して生活ができるように努めています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	勿論の事意見はよくきいており、給与等に関しては、又は、労働時間については基準に近い条件は満たしています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来てくれるたびに、職員、ご本人と共にお茶を飲みながら、近況を報告している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅に居た時と同じように、買い物に出かけたり、本人の趣味や好きな事が、出来るよう支援しています。	利用者の友人が訪ねて来ることがあり、職員はお茶を出して歓迎し、馴染みの関係の継続を支援している。 事業所近くの商店街にある馴染みの衣料品店で買い物を支援している。 利用者の希望にそって馴染みの美容室を継続して利用ができるよう送迎をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性の言い方とコミュニケーションが出来るように、食堂の席の配置や体操時の椅子の位置にも気を配っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した人が時々顔を見せてくれたり、家族の方から賀状を頂いたりするのでこちらからも返信して、支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	居室担当者を決めて、馴染みの関係を作り、本人の意向の汲みあげに努めている。	管理者や職員は日々の生活の中から利用者の思いや意向の把握に努めている。職員は知り得た利用者の情報を申し送りノートに記入して共有を図っている。意思表示の難しい利用者に対しては、意識的に声かけを多くしてコミュニケーションを図り、思いや意向の把握に努め、利用者本位に支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際に、前担当のケアマネージャから情報をもらい、初期対応に役立てている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事の摂取量、水分量を記録している、また、入浴時のバイタルチェック月初の体重測定を行い、状態の把握に努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族とコミュニケーションをとりながら、職員のアイデアを取り入れて介護計画を作っている。	利用者や家族等の意見や要望を聴き、職員で話し合っって介護計画を作成している。介護計画の期間を3ヶ月に定め、モニタリングを行って見直すとともに、利用者の心身の状態に変化が生じた場合は随時現状に即した介護計画に見直し、利用者や家族等の確認を得ている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録に、日々の変化を具体的に記入している、業務日誌、夜勤日誌も時間毎に記録して情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要な時には、救急病院への受診の付き添いも行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の老人会と交流したり、近所の神社や公園等に出かけたりしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は職員が付き添いをしている。	ペースメーカー装着の利用者の専門医への通院は家族等が付き添うとともに、家族等から結果の報告を受けている。 協力医療機関への受診は職員が付き添い、受診結果に変化が無い場合は、月1回家族等が来訪した時に報告している。 看護職員を配置してバイタルサインのチェックを行って健康管理をしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が、薬の管理や受診の指示等を行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、職員が交代で、面会を行って顔つなぎをしている。病院の担当医、ソーシャルワーカーとも直接あい、情報交換をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	要介護3位までの方を受け入れるとパンフレットに明記しており、重度化した場合は、適切に他の施設等を、紹介している。	現在は要介護度3の利用者の受け入れを基本にしているが、利用者が重度化した場合は家族等や協力医療機関の医師と相談して他施設や医療機関を紹介している。事業所では看取りの経験はなく、重度化や終末期の対応は今後の課題となっている。	重度化や終末期に向けて事業所としての対応方針を管理者や職員で話し合い、チームでの支援方針を構築することを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応を文書にして職員がわかるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い、その際には、消防署、役場職員の指導を仰いでいる。	年2回避難訓練を実施し、内1回は消防署指導のもと近隣住民の参加を得て実施しているが、夜間を想定した避難訓練を実施するまでには至っていない。訓練終了後には反省会を開き、反省点や「地震を想定した避難訓練実施」などの課題を記録している。スプリンクラーや消防署への通報装置、屋内消火栓を設置するとともに、緊急連絡網を整備している。乾パンや缶詰、飲料水、ガスコンロ、湯たんぽなどを備蓄している。	夜間を想定した避難訓練や地震など様々な災害を想定した避難訓練を実施することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	話しかける時は相手の顔を見て話す、わかりやすい言葉で丁寧に解かる言葉使いを心がけている。	職員が利用者を馴染みの呼び方で呼ぶ場合は、利用者や家族等に確認したうえで呼ぶようにしている。 個人情報に関する書類は、鍵のかかるロッカーに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけコミュニケーションを取話しやすい雰囲気作りに努めて、本人の意思に添うように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の日課の中で、本人の体調に合わせて過ごせるように言葉をかけ、気が向かない時は、希望に添う様に配慮します。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二ヶ月に1回の散髪の外に、ヘアダイ希望する方にも、支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	きざみ食や、小粥、食事の量など一人ひとりに合わせて対応している。	献立は職員が持ち回りで作成し、毎日遅番の職員が食材の買い出しをしている。入浴がある日の昼食と夕食は調理を専門に担当している職員が作り、それ以外の日には介護職員が調理をしている。正月にはおせち料理、ひな祭りにはちらし寿司など、季節の行事に合わせて行事食を提供している。誕生者がいる月には誕生会としてケーキを用意し、皆でお祝いをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取、食事の量を記録し一人ひとりの状態に合わせた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事のあと、口腔ケアに誘導している、本人自身でできない利用者には職員が全介助している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定期的に誘導して失敗を少なくするよう支援している。	利用者の水分摂取量や喫食状況、バイタルサインを記入する生活状況簿を使って利用者の排泄パターンや習慣を把握し、一人ひとりのタイミングに合わせてトイレに誘導し、失敗を少なくしている。要介護度3程度の利用者が多いため、職員はリハビリパンツの使用を止めて布パンツを使用しながらトイレ誘導し、排泄の自立に向けた支援をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の記録をして、便通の把握に努め、便秘の予防をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週3回の入浴日には、ゆっくり楽しんで入浴できるように工夫している。	週3回の入浴を基本とし、入浴の順番などは利用者の希望にそえるよう配慮して気持ち良く入浴ができるよう支援している。入浴を拒む利用者には声かけする職員を替えるなどの工夫をし、利用者の気分を変えながら誘導している。柚子湯や菖蒲湯で季節感を取り入れたり、入浴剤を使用して入浴が楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間を特に定めず、本人の体調に合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が薬の管理をしている、服薬時は、職員が、その都度見守り、介助をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族会や、四季折々の外出、買い物や散歩時には支援している。誕生会・クリスマス会もケーキを食べる機械として喜ばれている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の散歩は、日常的に行っている、お花見や、作品展、車でのドライブもまめにやっている。	企画担当職員が年間の外出計画を立て、初詣やだるま市、花見などの外出支援をしている。 隣地の香取神社の境内は日常的な散歩コースになっており、利用者は散歩の途中で手を合わせ参拝している。 居室からテラスに出られたり、事業所の敷地内に散策コースが設けられており、利用者は外気浴を楽しんでいる。 職員は食材の買い出しには利用者と一緒に出かけ、利用者が買い物ができるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の希望をする人には、付き添い、本人が手に手を取って好みの品物を購入できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中見舞いや年賀状を書いたり、旧知の方とやりとりを支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	談話室には、畳を敷き、落ち着いて洗濯物をたたんだり、テレビを見たりして過ごせるようにしている。	廊下の壁面に季節を題材にした折り紙や塗り絵など、利用者の作品を飾っている。 居間に畳を敷き、利用者は洗濯物を畳んだりしている。 畳の周囲にソファを配置し、テレビを見たりゆっくり寛げるよう配慮している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファには、一人ひとりの座る場所がほぼ決まっている、食堂も、気の合う人と一緒に食事できるような座席の配置を工夫している。	/		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が自宅で使っていたお気に入りの物を持ち込んでもらい、住み慣れた夜具に囲まれて落ち着いてもらえるよう工夫している。	居室にはエアコンやベッド、大きめのクローゼット、防災カーテンが備え付けられている。 利用者は居室に使い慣れた寝具や椅子、整理箆筒、テレビなどを持込み、居心地よく過ごせるよう工夫している。 季節毎の寝具や衣類の入れ替えは家族等の協力を得ている。 日常的には居室担当職員がクローゼットを整理整頓したり、日用品の在庫を把握し、利用者が快適に生活ができるよう支援している。	/	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの床、廊下には手すりを取り付けて転倒予防、自立歩行ができるようにしている。	/		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 県西さわやか

作成日 平成25年6月13日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議が他方面からの意を聞く機会になるよう、家族の代表や老人会長などせに委員を依頼したり、参加を働きかけること。	運営推進会議のはばを広げ他方面からの意見を汲みあげる。	平成25年度第1回運営推進会議には、家族の方、新しい理事の方等、メンバーが増えました。今後も各方面に働きかけて参加者が多くなるようにしたい。	半年
2	33	事業所では看取りの経験はなく、重度化や終末期の対応は今後の課題である。	家族や本人の意思に沿った、終末期の在り方を一人ひとり文書化する。	今月のミーティングで管理者・職員等で終末期の対応について話し合った。これに基づき家族の方と本人の意見を聞き、一人ひとりの対応方針を構築したい。	半年
3	35	夜間を想定した避難訓練や、地震など、様々な災害を想定した避難訓練を実施するようにはなっていない。	夜間帯、地震、台風等様々な災害を想定した避難訓練を実施する。	春の避難訓練は消防署6名、近所の方、境町役場福祉課長、入居者家族等、多数参加いただいて無事終了した。次回は夜間を想定した避難訓練を職員で話し合い実施したい。	半年
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。